

2007.初夏



なう

発行：子ども虐待防止センター・しずおか

発行：平成 19 年 6 月 15 日

「心配のあまり

子どもを追い込み
親自身が苦しんでしまう」



代表 渡辺賢二

子育ての中で、親が心配のあまり神経質になることがよくあります。

親なれば子どもの言動が気になり、心配になることは当たり前です。

- ・「どこへ行ってたの？ 心配したよ！」
- ・「こんな時間までなにしていたのよ！」
- ・「心配掛けさせないでよ！」

このちょっとした・・・ さりげない・・・

当たり前のように思い、つい投げかけた言葉が子どもにとっては大きな負担になっていることがあります。

親の思いと子どもの思いに、大きな食い違いを生じてしまうことになります。

上記の問いに対して、子どもがどのような返答をするか？ 返答の仕方によっては尚更の“つつこみ”のことばを発してしまいます。

“つつこみ”のことばによっては・・・

- ・「〇〇ちゃん家に行くって言ったよ」
- ・「だって〇〇ちゃんが、『もう少し、いいじゃん』と言ったもん」
- ・「心配かけさせるつもりなんかないもん」

このような子どもの返答に対して、あなただったら、次にどのような対応のことばを発しますか？

これらの親子の会話が、どのように進められ

るか？・・・によっては、親子関係のズレが生まれてしまいます。

- ・ 親によってはどなりちらします。
たたいてしまいます。
おしおきをします。
- ・ 子どもによっては泣きます。
わめきます。
キレます。
- ・ ここから、ダンマリをきめこみます。
ウソをつきます。
ワカッテクレナイと思います。

このへんから、心配のあまり、ついつい子どもを追いつめ・・・ 追い込んでしまいます。そして親が自分の意のまま(おもうがまま)にならないと自分を追い込み・・・ 自分を苦しめ始め・・・ 悩み始め・・・ イライラし始め・・・ 情けなくなり・・・ パニックに追い込み・・・ 苦しみ始めます。

ここが問題なのです。

手を出してでも何とかしたくなります。

この暴力を使ったら虐待のはじまりになってしまいます。

ひよんなことから虐待につながる言動をしてしまうのも、私達親なのです。

心配はわかります。

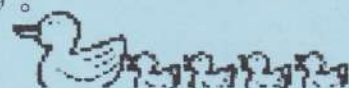
でも、わが子の言い分をまずは、しっかりと受け止めてやりましょう。

聴く耳を持ちましょう。

信頼(信用)してやりましょう。

そして何よりも親が冷静になることです。

見守ってやることです。



報告

～子どもたちの今を考える～

一緒に考えましょう!

(5月21日 アイセル21)

子どもたちの今

世界中から見ればまだまだ豊かな私たちの国、
子どもたちを取り巻く環境はどうでしょう？
平和とは子どもたちが
心から笑っていただける時です。

- ★ 朗読 「はれときどきぶた」 静岡YWCA有志
- ★ ミニコンサート 「ふるさと」「おやじ」「Abuse」他
子ども虐待防止センター・しずおか 鈴木潔
- ★ フリートーク

共催： 静岡 YWCA
子ども虐待防止センター・しずおか



朗読「はれときどきぶた」は静岡YWCAの有志の方々が息の合った雰囲気の中で、軽妙な語り口でほのぼのと楽しくお話を聴かせてくださいました。

ミニコンサートは、子ども虐待防止センター・しずおかの鈴木潔運営委員によるトークとギターの弾き語りでした。ギターの音色と相まって心の奥底にズシンと響いてくるものがありました。「Abuse」を聴いた時には、虐待を受けた子どもの悲しみが強烈に伝わってきて、聴いていて切なくなりました。

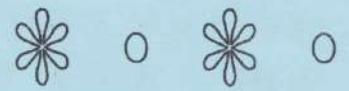
子ども達にこんな思いを絶対にさせてはいけないと痛切に思いました。一人でも多くの子ども達が心の底から笑える日が来ることを願って気持ちを新たにしました。



(報告:相談員 Y.S.)



相談員の広場



今、想うこと

三期生 K. Y.

インターン生となり、つきに2、3日のペースで相談室へ通っています。まだなれないことや、わからないことが多いものの、相談室の雰囲気には大分慣れてきました。

実際に電話に出て、利用者のお話を聴かせていただくことは、思っていたよりずっと難しいことでした。一本の電話を介して、人の育ちや文化を理解し、心に寄り添うことは容易ではありません。気が付くと物凄い力で受話器を握っていたりします…。

利用者と一緒に悩んだり笑ったり、これでいいのかと考えながらあたふたとしておりますが、とにかく丁寧にお話を聴かせていただくことを心がけています。

これからも、多くの利用者のお話を聴かせていただきながら、邪魔にならずにそっと心に寄り添うことのできる相談員になりたいと思います。



2007年度総会のお知らせ

日時:2007年6月30日(土)

13:30~16:00

場所:静岡女性会館内(アイセル)

4F 41会議室

内容:2006年度事業報告他

講話・ワークショップ



2007年5月に想うこと

三期生 S. I.

5月21日、椋鳥の雛が、会社の倉庫内で迷子になっていた。どこから落ちて来たのか。必死で親を求め鳴く声が痛々しい。みんなで、餌をやったり、巣を探したり。初夏の空を見上げると、つがいの親鳥が子を探して飛び回っている。

子捨ての事件がかまびすしい。そこにはさまざまな事情がある。愛情のかけらも無いような事件もあれば、もがき苦しんで、追い詰められて置き去りにしているケースもあるのだろう。赤ちゃんポストもしかりなのか。でも、どんな環境であれ、決して一人ではなかったはず。家族、親類、近所、友達。なぜ、自ら孤独を作り出してしまうのだろう。なぜ、周りは無関心を貫くのだろう。だから、私はせめて気になる子どもや親がいたら、何らかの行動を起こしてみようと思う。雛を助けようと、右往左往する人たちを見て、人間同士の関わり合いを信じる気持ちがあふれてきたからだ。

期せずして巣から落ちた雛は、倉庫最上階の軒先にある巣に返す間もなく力尽き、心優しい青年の涙と共に、土に帰された。命の尊さを、職場のみんなの心に刻み付けて…



平成18年11月児童虐待防止推進月間 全国一斉「子育て・虐待防止ホットライン」実施報告

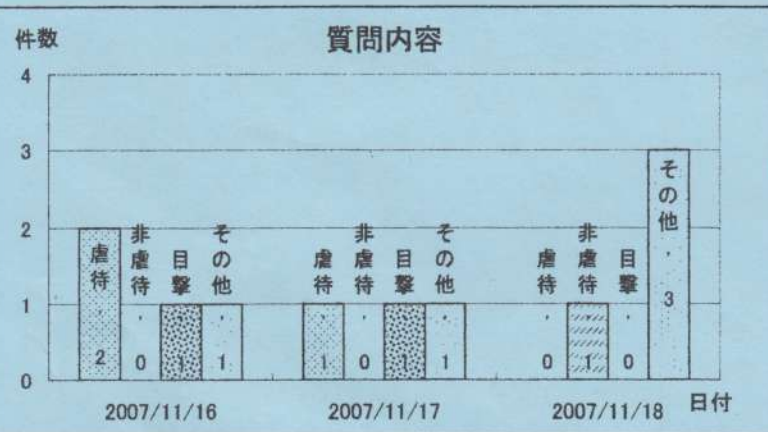
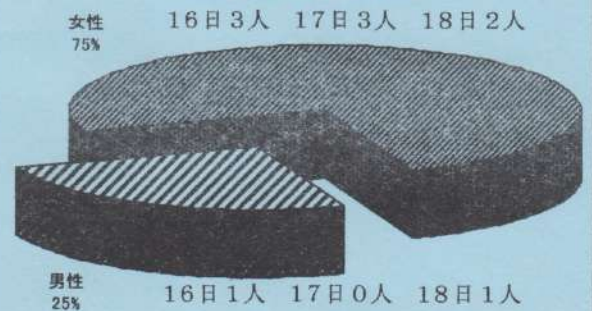
電話相談実施期日

平成18年11月16日(木) 10:00~20:00
17日(金) 10:00~20:00
18日(土) 10:00~20:00

合計相談時間 30時間
参加相談員 36名

事前にNPO法人センター、女性会館、保育園、幼稚園、スーパーや街頭でチラシを配布、その様子がTVニュースで放映されました。

相談者の男女比



電話相談実施期間中も、NHK、朝日新聞、静岡新聞、読売新聞、など各社から取材を受け放映、掲載されました。

いつもとは違う媒体の周知効果でしょうか、期間中の相談者全員が初めての利用者でした。

今年も

11月虐待防止月間におこないます。
ご協力下さい



活動支援会員の募集

助けを求める子どもたちへの援助と、すべての子ども虐待がなくなるよう、当センターの活動を支援してください！

年会費 正会員 一口 3,000円
賛助会員 一口 1,000円
法人・団体会員 一口 5,000円

振込先 郵便振替 00850-8-45664
子ども虐待防止センター・しずおか

住所 〒420-8691
静岡中央郵便局私書箱96号

編集後記

センターが誕生して7年が経ちました。会員の皆様のご協力のおかげで続いてきました。ありがとうございます。

感謝といよいよこれからだ！の気持ちを込めて「なう」通信をお届けします。

「なう」が親と子どもたちの瞳が輝く社会の一助となりますように！ ㊦

相変わらず虐待の凄まじいニュースが絶えない。何かとのんびりした静岡で早くからこの問題に取り組まれてきた諸先輩方に敬服。ささやかながらお手伝いできることを嬉しく思っています。快く原稿依頼に応じてくださった皆さんに感謝します。 ㊦

子ども虐待防止センター・しずおか



TEL&FAX: 054-251-7560

月～金曜日の13時～16時

E-mail

nau06shizuoka@sf.tokai.or.jp

http://www2.wbs.ne.jp/~nau